

水銀レス血圧計 KM-380 II

【警告】

《使用方法》

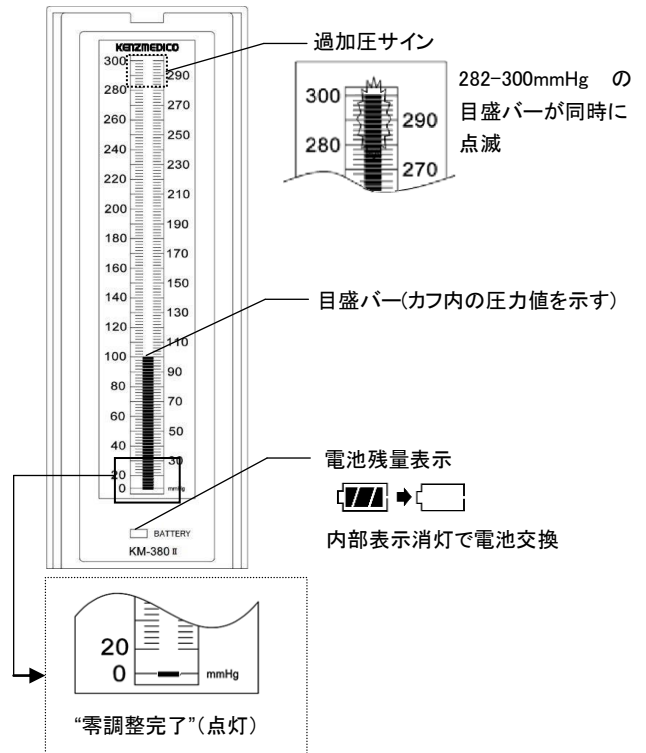
- 濡れた手で電池交換はしない。[感電の危険があります。]
- 本体及び付属品に水をかけない。
[感電や機器の故障の原因になります。]
- 本品の周辺で電磁波を発生する機器(携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等)を使用する場合は出来るだけ離れた位置で使用する。
[誤作動を生じる可能性があります。]
- 病院内の高圧酸素室や酸素 Tent 内など高濃度酸素下では絶対に使用しない。[発火の危険があります。]
- 病院内の麻酔ガスなど可燃性ガスの近くで使用しない。
[引火の危険があります。]
- 本体、腕帯及び付属品の分解・修理・改造は絶対にしない。
[感電したり、異常動作してケガをすることがあります。]

【禁忌・禁止】

《適用対象(患者)》

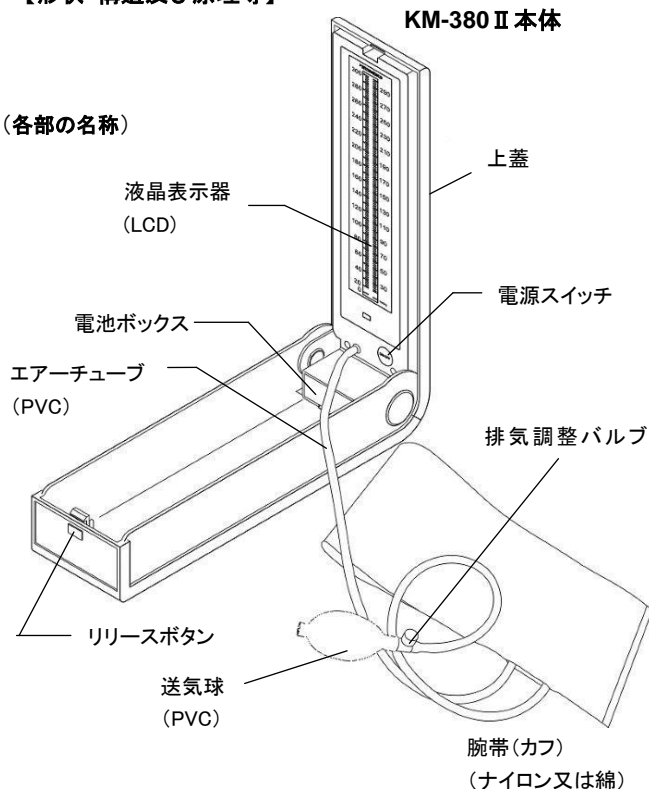
- 治療中で点滴静脈注射や輸血を行っている側の腕には腕帯を巻かないでください。
[ケガや事故を起こすおそれがあります。]
- 胸部に重度の血行障害がある人は、必ず医師と相談のうえ使用してください。
[体調不良を起こすおそれがあります。]
- 患者による測定結果の自己判断、治療はさせないでください。
- 医師の指導のもとについて測定し診断を受けさせ、薬剤の服用も医師の指示に合わせてください。
- 透析や点滴などの血管と流体接続するシステムを使用する環境下で血圧計を使用する場合、誤ってシステムと血圧計の空気圧系を接続しないように注意してください。
[血管内に空気が送られて事故の原因となります。]

液晶表示器詳細



* 付属品		
腕帯		1 個
送気球		1 個
取扱説明書(保証書付)		1 部
単 3 アルカリ電池		3 本

*【形状・構造及び原理等】



(この製品は JIS T 1115 に適合しています。)

* (本体の寸法及び重量)

寸法 約 334(縦)×約 96(横)×約 65(高) 単位:mm
×約 338(高):上蓋を開いた状態
重量 約680g(含む電池)

(原理)

聴診器を使用してコロトコフ音(K音)を聴取しながら最高血圧、最低血圧を測定します。(聴診法)
上腕に腕帯を巻いて、送気球により加圧することで動脈を圧迫し血流を止める。その後ゆっくりと圧迫を緩めていくと、血流は心臓の拍動に合わせて断続的に流れ始める。
このときに発生する血管音がコロトコフ音(K音)である。
コロトコフ音の発生点(第1点)の圧力が最高血圧(収縮期血圧)で、消失点(第4点又は第5点)の圧力が最低血圧(拡張期血圧)となる。

* (機器の分類)

電撃に対する保護の形式による分類: 内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類: BF形装着部

(電気的定格)

電源: 単3アルカリ電池3本 電圧: DC4.5V
消費電力: 最大0.2W(バックライト点灯時)
本製品はEMC規格IEC 60601-1-2に適合しています。

取扱説明書を必ずご参照ください

【基本機能】

圧力測定範囲: 20~300mmHg

目 量: 2mmHg

カフ内圧力表示の誤差: ±3mmHg以内

排気方式: 排気調整バルブによる

圧力表示: 目盛バー表示による

・自動電源オフ機能

電源を投入し、加圧しない状態で5分以上経過すると自動的に電源が切れます。(電源スイッチ切り忘れ防止)再度使用する場合は電源スイッチを入れます。

・自動バックライト機能

20mmHg以上加圧しない状態で約10秒経過するとやや暗くなります。その後20mmHg以上加圧しない状態で約50秒経過すると自動的にバックライトは消灯します。また、20mmHg以上に加圧すると自動的に点灯します。

【警報及び安全装置】

・電池電圧低下警報:

電池電圧が低下すると「電池残量表示」の内部表示が消灯し電池交換を促します。

・過加圧エラー:

腕帯内圧が315mmHgを超えると液晶表示器の目盛バーの「過加圧サイン」(282-300mmHgの目盛バー)が全て点滅し警告します。
※点滅したら直ちに、排気調整バルブを全開にして急速排気を行うか、本体に差し込んであるエアチューブを引き抜いてください。
再度使用する場合、電源を入れ直してください。

【使用目的又は効果】

腕周に巻きつける加圧可能な腕帯(カフ)、腕帯(カフ)内の空気圧を調節する弁、アナロイド式圧力計から構成される機器であり、聴診法により動脈血圧を非観血的に測定する。

【使用方法等】

【測定準備】

- 1.「リリースボタン」を押して、「上蓋」を90度になるまでしっかり開きます。
- 2.必要に応じて電池をセットします。
- 3.上着、セーター、厚手のシャツ等は脱がして腕帯を上腕部に巻きます。
- 4.「電源スイッチ」を押して電源を入れます。
※“零調整完了”状態まで待つ(「液晶表示器詳細」参照)
- 5.送気球により予想血圧より高めに加圧し聴診法にて測定を行います。
※測定中「電池残量表示」の内部が消灯したら電池を交換してください。
(詳細については取扱説明書を参照ください。)
- 6.測定後は、「送気球」及び「腕帯」を本体に格納し上蓋を“カチツ”と音がするまでしっかり閉めます。

【使用上の注意】

- ・透析治療中、又は抗凝固剤、抗血小板剤、ステロイド剤等を使用している場合は、慎重に使用してください。
[内出血を起こすおそれがあります。]

【保管方法及び有効期限】

【保管方法】

- 1.温度範囲 -10°C~50°C 湿度 RH85%以下(結露なきこと)
- 2.保管状態
 - ・急激な温度変化のある所、極端に高温や低温になる所、湿度の高い所、直射日光の当たる所、ほこりの多い所、化学薬品の保管場所やガスの発生する所は避けてください。
 - ・腕帯を無理に折り曲げ、小さくたたんだり、エアチューブを強く折り曲げた状態で保管しないでください。

【使用期限】

本体:5年(自主規格による)

【取扱上の注意】

- ・上腕の周囲長は使用腕帯の適用範囲であることを確認してください。
[測定誤差を生じることがあります。]
- ・付属品(腕帯等)以外のものは使用しないでください。
[測定誤差を生じることがあります。]
- ・腕帯と本体は、エア漏れのないよう、確実に接続されているか確認してください。[測定誤差を生じることがあります。]
- ・上蓋の開け閉めの際、铰合部や隙間などで指などを挟み込まないように注意してください。[ケガをするおそれがあります。]

【使用中の注意事項】

- ・使用中にカブレ等の症状がでた場合は、直ちに使用を中止して専門家の医師に相談してください。
- ・過加圧表示になったら直ちに「排気調整バルブ」を緩めて減圧するか、本体よりエアチューブを引き抜いて減圧してください。
[うっ血などの原因になることがあります。]
- 【保管時の注意事項】
 - ・腕帯・送気球・チューブ等を本体に格納する際、挟み込まないように注意してください。[本体破損の原因になることがあります。]
 - ・送気球のバルブが液晶表示器に当たらないように格納してください。
[液晶表示器が破損する場合があります。]

【保守・点検に係わる事項】

【保守点検事項】

- ・電源投入の際に「目盛バー」は全て表示されること。
- ・電源スイッチはスムーズに動作すること。
- ・送気球、腕帯及びエアチューブに傷がないこと。
- ・本体の汚れ、傷がないこと。

【清掃】

- ・本体が汚れたときは、ガーゼ等(水またはぬるま湯に浸し、よく絞る)の柔らかい布でふき取ってください。
[シンナー等の有機溶剤、ポリドンヨードでは絶対に拭かないでください。]
- ・本体内部に水や消毒液が侵入しないように水気をよく切ってから清掃してください。
- ・乾燥は乾いた柔らかい布で水気をよく拭き取り自然乾燥してください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

【製造販売業者】

ケンツメディコ株式会社
〒367-0206
埼玉県本庄市児玉町共栄 552 番地 1
Tel:0495-71-1001 Fax:0495-72-6716
URL <http://www.kenzmedico.co.jp>

【製造業者】

WENZHO BOKANG INSTRUMENTS CO., LTD.
NO.1500 HAINING RD HAIBIN LONGWAN WENZHO 325024 CHINA

ケンツメディコ株式会社
〒367-0206
埼玉県本庄市児玉町共栄 552 番地 1
Tel:0495-71-1001 Fax:0495-72-6716